

## 一般質問

9月定例会

景山 登美男 議員

## Q 光ファイバー網の活用を

本町では、昨年度赤来地域、今年度は頓原地域で、FTTH化(※1)の整備を実施しており、来年の3月には町内全域で整備が完了し、全ての加入者の皆さんが、これを利用してテレビやインターネットのサービスを受けることになる。

整備により、テレビやインターネットのサービスにおいて、何が変わるのか。

インターネット回線には上りと下りがあるが、このたびの整備後のプランでは、下りに50メガと100メガが追加されるとともに、上りの速度はすべてのプランで下りと同じになる。

通信速度の大幅な改善と空き家の活用により、サテライトオフィスの誘致を積極的に推進してほしい。人口減少の歯止めの手助けになると思う。教育・医療・介護など、さまざまな分野で幅広い活用が期待できる。

例えば現在、本町には緊急通報システムがあるが、本人がボタンを押さなければ異常を

知らせることができない。高齢者の自宅の居間、寝室、トイレなどに有感センサーを設置し、高齢者が動く反応がなければ、インターネットを利用して家族や協力者などへ通報することが可能になるのではないかと。また、カメラによる監視も可能になる。

整備された光ファイバー網の活用を、早急に考えていかなければならないが、どのように考えているか。

(※1) FTTH化とは、光ファイバーを加入者宅へ直接引き込むこと



## A まちづくりを活用

町長 山崎 英樹

テレビは、4K・8Kの高画質、高品質な映像サービスが可能になる。また、インターネットサービスでは、上位回線の増強工事も完了したことから、増強されたインターネット環境による運用ができることになった。

上り回線の速度の大幅な改善を活用し、テレワーク(※2)、サテライトオフィスの誘致、I

T人材の誘致、ひいては働き場の確保につなげたい。

光ファイバー網と高速インターネット環境を、本町のまちづくりに有効に活用しなくてはならないと思っている。

提案された高齢者の見守りをはじめ、様々な分野で活用できるサービスの導入を図っていく。

(※2) テレワークとは、情報通信機器等を活用し、場所や時間の制約を受けず、柔軟に働くことのできる形態



## Q 農業振興計画あと1年半の取り組みは

① この計画期間は平成28年からの5年間で、目標生産額は24億4400万円であるが、達成の見込みは。

② 6次産業化では、(株)エリーゼの操業休止、地域内循環システムでは飯南木質バイオマスセンターが休止の状態だ。計画に対する影響は。

③ 目標は農業生産額で立てられているが、1農家あたりの所得で考えることが重要だ。

所得を目標にすることで、農家の生産意欲を刺激できる。

来年は次期計画着手の年である。農林業者の望みを叶える振興策にすべきと考えるが。



最盛期を迎え早朝から収穫に汗を流す

## A 町の基となる農業振興次期計画に注力

町長 山崎 英樹

① 園芸作物を上方修正し、24億8100万円の目標にしているが、達成率は96.7%と見込んでいる。部門別では畜産105%、米穀類91.2%、園芸作物66.8%となっている。

② (株)エリーゼの休業については心配をお掛けし申し訳なく思っている。加圧玄米の原料は町内産の計画だったが、まだ商品開発の段階で、影響はない。

将来的には、町内産米にする計画だったので影響はあると思う。早期立てなおしを期待している。

木質バイオマスセンターのオガコ生産休止は、循環型農業展開の中で構想が止まっているわけで、非常に残念なことだ。

再稼動に向け、オガコ利用計画の見直しなど、森林組合と課題を整理しているが、結論はでていない。

③ 所得に視点を置くことは大事だ。専業・兼業農家の生産モ

デルを作成するため、県が農業改善計画をもとに資料収集を始めており、町も協力している。

本町に適した作物、単価、収量など検討するが、しっかりとした営農指導体制が必要だ。次期計画策定は、各生産部会でよく話を聞き、意見交換する中で作り上げていく。

今年度から座談会方式を改め、分野毎に話し合う場を作る。11月は農業のテーマで開催するので、日頃思っておられることを聞かせていただき、皆で考えていければ良いと思っている。

本町の基となる農業振興をしっかりとできる計画として行かなくてはならない。

## 一般質問

9月定例会

門 眞一郎 議員